

友史会 2025 年 11 月例会

## 豊中桜塚古墳群を歩く

令和 7 年 11 月 16 日(日)

案内：吉村和明 学芸課副主任

行程：阪急岡町駅→大石塚古墳・小石塚古墳・豊中市立伝統芸能館

→原田神社→大塚古墳→御獅子塚古墳→南天平塚古墳→梅塚古墳 解散

〔感想文 11 月例会だより〕 令和 7 年 11 月例会に参加して

11 月 16 日(日)の秋らしく清々しい朝、さすがのご人徳でこの好天をもたらしていただいた檀考博・吉村和昭先生ご担当の歩く例会を迎えました。今回は奈良を離れて、摂津は豊中周辺が舞台となり、阪急宝塚線の岡町駅前に 100 名弱の会員が集合しました。

集合場所の駅前広場で、先生から本日の見学コースの概要等の説明を受けました。今回のテーマは「桜塚古墳群」。ここ豊中市岡町周辺に位置する古墳群は、かつては 40 基以上存在していたものの、周辺の宅地開発で徐々に消滅し、残るのはわずかに 5 基。本日はその現存する古墳を順番に見学していきます。

まずは、駅から 3 分ほどの西群の 2 基、大石塚・小石塚古墳を訪ねます。住宅地の中の公園のようにたたずむ 2 基の前方後円墳。大石塚は全長 80m 以上、小石塚が全長 49m で主軸を揃えて縦に並んでいます。4 世紀中頃から後半にかけてのもので、出土した大型の円筒埴輪は、隣接している豊中市立伝統芸能館で展示されていました。どちらの古墳も周辺は柵で囲われていましたが、今日は市の教育委員会の方に解錠してもらい、中に入ることができました。先生を先頭に墳頂へ上っていきましたが、先生のズボンにはたくさんのひつつき虫が… 露払いもせずに失礼致しました。

一旦、岡町駅に戻り、駅の反対側へ。昭和レトロなアーケード商店街を抜け、原田神社に到着です。この辺りでは有数の古社であり、今寄ってきた 2 基の古墳のあった土地もこの神社の社地だったとか。ただ原田神社が例会のルートにも選ばれた理由は、この地から有名な銅鐸が出土したことだそうです。銅鐸という謎の祭器が古社の敷地内から出てくるといつながりに、えも言われぬロマンを感じました。

原田神社より更に東へ進むこと約 10 分、桜塚古墳群の東群、その中心的な大塚古墳に到着。大塚古墳は、直径 56m、高さが 8m 以上の円墳で、東群で最大の古墳です。1980 年代の発掘調査にて未盗掘であった東柳からは、鏡や甲冑・剣等が出土したとのこと。5 世紀前半の堂々たる古墳で、1990 年に史跡公園として整備され偉容を誇っていました。

ここで昼食のための休憩となりました。ここは街中ののどかな公園。若い親子連れも多く、子供たちが元気よく走りまわっていました。隣の小学校は、今日は何かのイベントか、人の出入りも多く、とにかくにぎやかな公園に、人知れずたたずむ大型の円墳。この子供たちは古墳の何たるやもわからないと思いますが、古墳のあるこの公園が原風景としていつもでも残るのでしょうか。

昼食後は、すぐ隣の御獅子塚古墳へ。こちらは、全長 55m の前方後円墳で、大塚古墳に次ぐ規模を有する、5 世紀前半から半ばの東群を代表する古墳です。革製盾の良好な資料が残っていたことでも有名だそうです。古墳は前方部・後円部とも大変きれいに整備されていました。ただここも周囲に柵が巡らされており、午前中同様に、今日は鍵を開けてもらって墳頂に上がることができました。史跡の整備は市民への啓蒙も含まれると考える一方、急傾斜の階段もあり、事故防止の視点も考慮すると、管理というのは難しいものだと痛感しました。

さらに南へ進んで、東群最後の南天平塚古墳へ。道路の真ん中にかろうじて残るようにあった直径 20m、高さ約 6m の円墳です。ここまでの 4 基の古墳が比較的よく整備されていたのに対し、ここはシートで覆われて、かろうじて原型をとどめているという状態でした。すぐ隣が豊中警察署で、人や車の行き来が多いところの道中にポツンと残っている古墳は、先の御獅子塚古墳とは違った意味で、保存の難しさを感じました。

ここまでで桜塚古墳群の見学は終了し、最後に東へむかって服部緑地へ進み、ここで解散となりました。本日の例会は、大阪梅田から 15 分ほどという、都会の住宅地に点在する古墳群ということで、大変興味深いものがありました。それぞれの古墳で丁寧なご説明をいただいた、吉村先生に深く御礼申し上げます。

東京都 岡崎雅彦

[記録写真]



大石塚古墳



原田神社



大塚古墳



御獅子塚古墳



南天平塚古墳、吉村先生説明